

5. 教育活動

5.1 教育活動への関わり

防災研究所の教員は、本学内外における教育にさまざまに貢献している。学内における教育活動には、学部生・修士学生・博士学生の学位論文研究に対する研究指導、並びに本学学部、研究科の科目の講義が含まれる。この他、受け入れ研究生・研修員の指導等も含まれる。

学外における教育活動としては、他大学・大学院等における非常勤講師としての講義の他に、一般人や技術者、小・中・高校生を対象とした講演や講義等が含まれる。

大学における教育活動は、将来を担う研究者の教育、社会への研究成果の還元といった意味で充ち足り、研究活動とともに密接不可分のものである。このことは、研究科と比較して研究により重点のある研究所においても例外ではないが、研究活動との兼ね合いをどの程度にするかは検討課題である。

5.2 大学院教育

防災研究所の各研究分野・領域は、理学研究科地球惑星科学専攻、工学研究科社会基盤工学専攻、同都市社会工学専攻、同都市環境工学専攻、および同建築学専攻、情報学研究科社会情報学専攻、地球環境学堂の協力講座として、大学院の講義、ゼミナール等を担当している。また G-COE プログラムに関連した工学研究科・融合工学コースや、京都サステナビリティ・イニシアティブの講義、公共政策大学院といった組織においても、危機管理、リスクマネジメントといった内容の講義を提供している。平成 28 年度の防災研究所の教員が担当している大学院担当講義科目および担当教員名を表 5.2.1 に示す。

表 5.2.2 には、他大学院における講義名と担当教員を示す。非常勤講師として講義を担当しているのは、平成 26~28 年度において 9 大学院 7 名（のべ 10 講義）である。

平成 26~28 年度の期間に防災研究所で受け入れ、防災研究所の教員に研究および論文執筆の指導を受けた博士課程および修士課程の大学院生の数を、それぞれ、表 5.2.3 および表 5.2.4 に示す。

博士課程の学生は、平成 23~25 年度の平均が 73 名であったのに対し 26~28 年度は 76 名とやや増加傾向にある。前 3 年間に比べて社会人学生、留学生が減少し、日本人学生の進学が増加している点は注目すべきである。

修士課程の在籍者数は平均 104 名で、前回点検時の 103 名とほぼ同じであった。分野・領域当たり

平均すると博士課程では約 2 名、修士課程で約 3 名と前回(平成 23~25 年度)の調査とほぼ同じである。これまで見られた修士から進学した日本人の課程博士学生の減少傾向には歯止めが掛かっているようである。

表 5.2.5 は、防災研の教員に係った学位論文の一覧をまとめたものである。防災研究所に所属する博士課程大学院生の学位取得件数は、平成 26 年度 17 件、27 年度 14 件、28 年度 10 件で、3 年間の合計で 41 件と前回の 48 件から減少した。この他、防災研教員が学位審査の主査をつとめた論文博士が 3 年間で 13 件あり、前回の 11 件より増加した。

また、修士の学位授与に関しては表 5.2.6 に示すとおりで推移し、平均で 43 人となった。これは、前回の平成 23~25 年度に比較し、年間 5 人程度減少し、長期減少傾向は継続している。

近年、独立行政機関のポストドクター研究員等の期限付き研究職に就く者も増えてきたものの、社会全体として常勤ポストが限られている現在、博士課程修了者の身分は依然として不安定な状況であり、修士課程修了者が進学しにくくなっている大きな要因の一つとなっていると考えられる。

表 5.2.1 大学院担当講義課目一覧（平成 28 年度）

【社会防災研究部門】			
担当（部門内）	協力研究科・専攻等	科目名	学年・学期
川瀬 博・教授	工学研究科・建築学専攻	建築学特別演習 I, II	修士課程
		建築学総合演習 I	修士課程
		先端建築学特論 II	博士課程
		建築構造学セミナー I, II, III, IV	博士課程
		都市災害管理学	修士課程・後期
牧紀男・教授	工学研究科・建築学専攻	建築学特別演習 I, II	修士課程
		建築学総合演習 I	修士課程
		デザイン方法論	修士課程
		先端建築学特論 II	博士課程
関口春子・准教授	理学研究科・地球惑星科学専攻	応用地震学 B	修士課程
		応用地震学ゼミナール A, B, C, D	修士課程
		応用地震学ゼミナール	博士課程
寶 馨・教授	工学研究科・社会基盤工学専攻	水文気象防災学	修士課程・前期
		環境防災生存科学	修士課程・前期
		グローバル生存学	修士課程・前期
		自主企画プロジェクト	修士課程
		社会基盤工学セミナーA, B	修士課程
		社会基盤工学総合セミナーA, B	博士後期課程
	総合生存学館	環境防災学特論	博士課程・前期
医学研究科	リスク学通論	博士課程（GSS）	
佐山敬洋・准教授	工学研究科・社会基盤工学専攻	水文気象防災学	修士課程・前期
		環境防災生存科学	修士課程・前期
		グローバル生存学	修士課程・前期
		社会基盤工学セミナーA, B	修士課程
		社会基盤工学総合セミナーA, B	博士後期課程
Florence LAHOUR-NAT・講師	教育学研究科・教育科学専攻	Cultural Studies of Safety and Security	修士課程・後期
寶 馨・教授 矢守克也・教授 山敷庸輔・准教授	工学研究科・社会基盤工学専攻	環境防災生存学特論	修士課程・前期
多々納裕一・教授	情報学研究科・社会情報学専攻	社会情報学特殊研究 1, 2	修士課程
	地球環境学舎 サステナビリティコース	防災経済学	学舎院生・前期
	工学研究科・融合工学コース （人間安全保障工学分野）	災害リスク管理論	修士課程・博士課程・前期
	情報学研究科・社会情報学専攻	防災情報特論	修士課程・前期
Subhajyoti SAMAD-DAR・准教授	情報学研究科・社会情報学専攻	社会情報学特殊研究 1, 2	修士課程

Subhajyoti SAMAD-DAR・准教授	地球環境学舎 サステナビリティコース	防災経済学	学舎院生・前期
	工学研究科・融合工学コース (人間安全保障工学分野)	災害リスク管理論	修士課程・博士課程・前期
【巨大災害研究センター】			
担当（部門内）	協力研究科・専攻等	科目名	学年・学期
横松宗太・准教授	工学研究科・都市社会工学専攻	都市社会情報論	修士課程・前期
矢守克也・教授 畑山満則・教授 大西正光・准教授	情報学研究科・社会情報学専攻	防災情報特論	修士課程・前期
矢守克也・教授	情報学研究科・社会情報学専攻	Advanced Study in Social Informatics I, II	修士課程・通年
		社会情報学特殊研究 1, 2	修士課程・通年
		社会情報学特別セミナー	博士課程・通年集中
		地域・防災情報システム学特別セミナー	博士課程・通年
Ana Maria Cruz・教授 横松宗太・准教授	工学研究科・都市社会工学専攻	キャップストーンプロジェクト	修士課程・通年
		リスクマネジメント論	修士課程・後期
		都市社会工学総合セミナーB	博士後期課程・後期
	GCOE/地球環境学舎	災害リスク管理論/防災経済学	修士・博士課程
Ana Maria Cruz・教授	グローバル生存学大学院	Introduction to Risk Studies	修士・博士課程・後期
【地震災害研究部門】			
担当（部門内）	協力研究科・専攻等	科目名	学年・学期
岩田知孝・教授	理学研究科・地球惑星科学専攻	応用地震学 A	修士課程・前期
浅野公之・准教授	理学研究科・地球惑星科学専攻	応用地震学 B	修士課程・後期
岩田知孝・教授 浅野公之・准教授	理学研究科・地球惑星科学専攻	応用地震学ゼミナール A, B, C, D	修士課程
		応用地震学ゼミナール	博士課程
澤田純男・教授 後藤浩之・准教授	工学研究科・都市社会工学専攻	サイスミックシミュレーション	修士課程・後期
		社会基盤構造工学	修士課程・後期
		都市社会情報論	修士課程・前期
澤田純男・教授 後藤浩之・助教	工学研究科・都市社会工学専攻	キャップストーンプロジェクト	修士課程
松島信一・教授	工学研究科・建築学専攻	建築学特別演習 I, II	修士課程
		建築学総合演習 I	修士課程
		先端建築学特論 II	博士課程
		建築構造学セミナー I, II, III, IV	博士課程
		都市災害管理学	修士課程・後期
【地震防災研究部門】			
担当（部門内）	協力研究科・専攻等	科目名	学年・学期
MORI, James Jiro・教授	理学研究科・地球惑星科学専攻	固体地球物理学 II A	修士課程・前期
		多階層地球変動科学特論：固体圏科学	修士課程・前期
		地震テクトニクスゼミナール A, B, C, D	修士課程
		地震テクトニクスゼミナール	博士課程

大見士朗・准教授	理学研究科・地球惑星科学専攻	計測地震学 B	修士課程・後期
大見士朗・准教授 山田真澄・助教	理学研究科・地球惑星科学専攻	計測地震学ゼミナール A, B, C, D	修士課程
		計測地震学ゼミナール	博士課程
大志万直人・教授 吉村令慧・准教授	理学研究科・地球惑星科学専攻	応用地球電磁気学 I A, I B, II A, II B	修士課程
		応用地球電磁気学ゼミナール A, B, C, D	修士課程
		応用地球電磁気学ゼミナール	博士課程
中島正愛・教授 倉田真宏・准教授	工学研究科・建築学専攻	構造安全制御	修士課程・後期
		建築学総合演習 I	修士課程
		建築学特別演習 I, II	修士課程
		建築構造学セミナー I, II, III, IV	博士課程
		先端建築学特論 II	博士課程
【地震予知研究センター】			
担当 (部門内)	協力研究科・専攻等	科目名	学年・学期
山崎健一・助教	理学研究科・地球惑星科学専攻	応用地球電磁気学ゼミナール A,B,C,D	修士課程
加納靖之・助教	理学研究科・地球惑星科学専攻	地球惑星内部ダイナミクスゼミナール A, B, C, D	修士課程
		地球惑星内部ダイナミクスゼミナール	博士課程
澁谷拓郎・教授 伊藤喜宏・准教授	理学研究科・地球惑星科学専攻	計測地震学 A	修士課程・前期
宮澤理稔・准教授	理学研究科・地球惑星科学専攻	計測地震学 B	修士課程・後期
澁谷拓郎・教授 西上欽也・教授 片尾浩・准教授 宮澤理稔・准教授 野田博之・准教授 加納靖之・助教	理学研究科・地球惑星科学専攻	計測地震学ゼミナール A, B, C, D	修士課程
		計測地震学ゼミナール	博士課程
飯尾能久・教授 片尾 浩・准教授	理学研究科・地球惑星科学専攻	地震テクトニクス A	修士課程・前期
西上欽也・教授 深畑幸俊・准教授	理学研究科・地球惑星科学専攻	地震テクトニクス B	修士課程・後期
飯尾能久・教授 深畑幸俊・准教授 橋本 学・教授 西村卓也・准教授 伊藤喜宏・准教授 山下裕亮・助教 宮崎真大・助教	理学研究科・地球惑星科学専攻	地震テクトニクスゼミナール A, B, C, D	修士課程
		地震テクトニクスゼミナール	博士課程
橋本 学・教授 西村卓也・准教授	理学研究科・地球惑星科学専攻	測地学・地殻変動論 B	修士課程・後期
橋本 学・教授 深畑幸俊・准教授 西村卓也・准教授 寺石眞弘・助教 森井 互・助教 徐 培亮・徐教	理学研究科・地球惑星科学専攻	地殻変動論ゼミナール A, B, C, D	修士課程
		地殻変動論ゼミナール	博士課程
山崎健一・助教	理学研究科・地球惑星科学専攻	応用地球電磁気学ゼミナール A, B, C, D	修士課程
		応用地球電磁気学ゼミナール	博士課程
【火山活動研究センター】			
井口正人・教授 中道治久・准教授	理学研究科・地球惑星科学専攻	火山物理学・火山流体学 A, B	修士課程

井口正人・教授 中道治久・准教授	理学研究科・地球惑星科学専攻	環境地球科学ⅡA, B	修士課程
井口正人・教授	理学研究科・地球惑星科学専攻	火山物理学・火山流体学ゼミナール	博士家庭
井口正人・教授 中道治久・准教授 山本圭吾・助教 味喜大介・助教 為栗 健・助教	理学研究科・地球惑星科学専攻	環境地球科学ゼミナールⅡA, B, C, D	修士課程
		環境地球科学ゼミナールⅡ	博士課程
【地盤災害研究部門】			
井合 進・教授 上田恭平・助教	工学研究科・社会基盤工学専攻	地盤防災工学	修士課程
井合 進・教授	工学研究科・社会基盤工学専攻	自主企画プロジェクト	修士課程・通年
		社会基盤工学セミナーA, B	修士課程・通年
		社会基盤工学総合セミナーA, B	博士課程
千木良雅弘・教授 松四雄騎・准教授	理学研究科・地球惑星科学専攻	環境地球科学ⅢA	修士課程・前期
千木良雅弘・教授	理学研究科・地球惑星科学専攻	災害地質学	修士課程・後期
松浦純生・教授 寺嶋智巳・准教授	理学研究科・地球惑星科学専攻	水圏地球物理学ⅡA, B	修士課程・前・後期
寺嶋智巳・准教授	理学研究科・地球惑星科学専攻	環境地球科学ⅠA	修士課程・前期
千木良雅弘・教授 松浦純生・教授 寺嶋智巳・准教授 松四雄騎・准教授	理学研究科・地球惑星科学専攻	環境地球科学ゼミナールⅢA, B, C, D	修士課程
		環境地球科学ゼミナールⅢ	博士課程
松浦純生・教授 寺嶋智巳・准教授 齊藤隆志・助教	理学研究科・地球惑星科学専攻	水圏地球物理学ゼミナールⅢA, B, C, D	修士課程
		水圏地球物理学ゼミナールⅢ	博士課程
【斜面災害研究センター】			
王 功輝・准教授	理学研究科・地球惑星科学専攻, 地球環境学堂	環境地球科学ⅠB	修士課程・後期
釜井俊孝・教授	理学研究科・地球惑星科学専攻	環境地球科学ⅢB	修士課程：後期
釜井俊孝・教授 王 功輝・助教	理学研究科・地球惑星科学専攻	環境地球科学ゼミナールⅠA, B, C, D	修士課程
		環境地球科学ゼミナールⅠ	博士課程
【気象・水象災害研究部門】			
向川 均・教授 榎本 剛・准教授	理学研究科・地球惑星科学専攻	応用気象学ⅠA, B	修士課程
向川 均・教授 榎本 剛・准教授 井口敬雄・助教	理学研究科・地球惑星科学専攻	応用気象学ゼミナールⅠ	博士課程
		応用気象学ゼミナールⅠ A, B, C, D	修士課程
榎本剛・准教授	情報学研究科	計算科学入門	修士課程
石川裕彦・教授 竹見哲也・准教授	理学研究科・地球惑星科学専攻	応用気象学ゼミナールⅡ	博士課程
石川裕彦・教授 竹見哲也・准教授 堀口光章・助教	理学研究科・地球惑星科学専攻	応用気象学Ⅱ A, B	修士課程
		応用気象学ゼミナールⅡ A, B, C, D	修士課程
榎本剛・准教授 堀口光章・助教 ほか	理学研究科・地球惑星科学専攻	多階層地球科学変動実習Ⅰ	修士課程

丸山 敬・教授 西嶋一欽・准教授	工学研究科・建築学専攻	建築風工学	修士課程・後期
		建築学特別演習Ⅰ・Ⅱ	修士課程・前・後期
		先端建築学特論Ⅱ	博士課程
		建築構造学セミナーⅢ・Ⅳ	博士課程
丸山 敬・教授	工学研究科・都市環境工学専攻	建築構造学セミナーⅢ	修士課程・前・後期
森 信人・准教授	工学研究科・社会基盤工学専攻	沿岸・都市防災工学	修士課程・前期
中北英一・教授 城戸由能・准教授 山口弘誠・准教授	工学研究科・社会基盤工学専攻	水文気象防災学	修士課程・前期
		自主企画プロジェクト	修士課程・通年
		社会基盤工学セミナーA,B	修士課程・通年
		社会基盤工学総合セミナーA,B	博士課程・通年
中北英一・教授 間瀬 肇・教授 森 信人・准教授 山口弘誠・准教授	工学研究科・社会基盤工学専攻	環境防災生存科学	修士課程・前期
【流域災害研究センター】			
藤田正治・教授 平石哲也・教授 竹門康弘・准教授 堤 大三・准教授 馬場康之・准教授	工学研究科・ 社会基盤工学専攻 都市社会学専攻	流域環境防災学	修士課程
中川 一・教授 竹林洋史・准教授 川池健司・准教授 藤田正治・教授 平石哲也・教授 竹門康弘・准教授 堤 大三・准教授	工学研究科・社会基盤工学専攻	流域治水砂防学	修士課程
藤田正治・教授 平石哲也・教授 中川 一・教授 米山 望・准教授 川池健司・准教授 竹林洋史・准教授 堤 大三・准教授 馬場康之・准教授	工学研究科・ 社会基盤工学専攻 都市社会学専攻	流域管理工学	修士課程
藤田正治・教授 中川 一・教授 堤 大三・准教授 川池健司・准教授	工学研究科・社会基盤工学専攻	社会基盤工学総合セミナーBI, BII	博士課程
中川 一・教授 川池健司・准教授	工学研究科・社会基盤工学専攻	流域治水砂防学	修士課程・隔年前期 (平成28年度開講 せず)
川池健司・准教授	工学研究科・社会基盤工学専攻	流域管理工学	修士課程・後期
中川 一・教授 川池健司・准教授	工学研究科・社会基盤工学専攻	社会基盤工学総合セミナーA, B	博士課程
中川 一・教授 川池健司・准教授	工学研究科・社会基盤工学専攻	自主企画プロジェクト	修士課程・通年
		社会基盤工学セミナーA,B	修士課程・通年
中川 一・教授	工学研究科・社会基盤工学専攻	環境防災生存科学	修士課程・前期
中川 一・教授 川池健司・准教授	工学研究科・社会基盤工学専攻	社会基盤工学 ORT	博士課程

五十嵐 晃・教授	工学研究科・都市社会工学専攻	構造ダイナミクス	修士課程・前期
		地震・ライフライン工学	修士課程・前期
		社会基盤構造工学	修士課程・後期
		構造工学実験法	修士課程・集中
五十嵐 晃・教授 米山 望・准教授	工学研究科・都市社会工学専攻	沿岸・都市防災工学	修士課程・前期
		都市社会情報論	
		都市社会工学セミナー A, B	修士課程・通年
		キャップストーンプロジェクト	
		自主企画プロジェクト	
		都市社会工学 ORT	博士課程・通年
		都市社会工学総合セミナーA, B	
都市社会工学総合実習 A, B			
中川 一・教授	工学研究科・社会基盤工学専攻	環境防災生存科学	修士課程・前期
平石哲也・教授	工学研究科・社会基盤工学専攻	社会基盤工学総合セミナーCI	博士課程
【水資源環境研究センター】			
堀 智晴・教授 角 哲也・教授 田中茂信・教授 竹門康弘・准教授 田中賢治・准教授 Kantoush Sameh・准教授	工学研究科・都市社会工学専攻	応用水文学	修士課程・前期
堀 智晴・教授 角 哲也・教授	工学研究科・都市社会工学専攻	都市社会情報論	修士課程・前期
堀 智晴・教授 田中賢治・准教授	工学研究科・都市社会工学専攻	水資源システム論	修士課程・前期
堀 智晴・教授 角 哲也・教授 田中茂信・教授 竹門康弘・准教授 田中賢治・准教授 Kantoush Sameh・准教授 浜口俊雄・助教 野原大督・助教	工学研究科・都市社会工学専攻	自主企画プロジェクト	修士課程・通年
		都市社会工学セミナーA, B	
		都市社会総合セミナーA, B	博士後期課程・通年
堀 智晴・教授 野原大督・助教	工学研究科・都市社会工学専攻	キャップストーンプロジェクト	修士課程・通年
竹門康弘・准教授	工学研究科・都市社会工学専攻	流域環境防災学	修士課程・前期

表 5.2.2 他大学大学院での担当講義科目一覧

分野・領域	氏名	職	大学院名	研究科名	年度	講義科目名
防災技術政策	佐山敬洋	准教授	政策研究大学院大学	水災害リスクマネジメントプログラム	28	Practice on Flood Forecasting and Inundation Analysis
	佐山敬洋	准教授	筑波大学	筑波大学生命環境科学研究科	27	Water-related Disaster Risk Management
火山噴火予知	井口正人	教授	東北大学大学院	理学研究科	27	火山物理学特論
			秋田大学大学院	工学資源学研究科	28	応用地震学
水文気象	中北英一	教授	名古屋大学大学院	工学研究科	27	社会基盤工学総合プロジェクトA
耐風構造	西嶋一欽	准教授	University of Waterloo	Meachanical and Mecha-tronics Engineering	26-28	Fire risk analysis
地域水環境システム	田中茂信	教授	鳥取大学大学院	大学院工学研究科	26	社会基盤工学特別講義 I
地域水環境システム	田中茂信	教授	政策研究大学院大学	水災害リスクマネジメントプログラム	26-28	Urban Flood Management and Flood Hazard Mapping
災害気候	向川均	教授	東京大学大学院	理学系研究科	27	大気海洋科学特論IV
	榎本剛	准教授	九州大学大学院	理学府	27	地球惑星科学特別講義 III

表 5.2.3 大学院在籍者数（博士課程）（各年度 5 月 1 日時点）

部門・センター名	領域・分野名	26 年度				27 年度				28 年度			
		社会人	留学生	左記以外	全体	社会人	留学生	左記以外	全体	社会人	留学生	左記以外	全体
社会防災研究部門	都市空間安全制御	0	0	1	1	0	0	1	1	1	1	1	3
	都市防災計画	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	3
	防災技術政策	0	10	1	11	0	10	0	10	0	10	0	10
	防災社会システム	0	1	3	4	0	1	2	3	0	0	1	1
巨大災害研究センター	巨大災害過程	1	2	3	6	1	0	4	5	1	0	5	6
	災害情報システム	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	2	2
	災害リスクマネジメント	0	0	1	1	1	0	1	2	1	1	1	3
地震災害研究部門	強震動	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	耐震基礎	1	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	1
	構造物震害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
地震防災研究部門	耐震機構	3	2	0	5	1	2	0	3	0	1	2	3
	地震テクニクス	0	0	1	1	0	0	3	3	0	0	3	3
	地震発生機構	0	0	2	2	0	1	2	3	0	1	2	3

地震予知センター	(6 領域合計)	0	0	1	1	0	0	2	2	0	0	2	2
火山活動研究センター	火山噴火予知	0	0	1	1	0	1	1	2	1	1	0	2
地盤災害研究部門	地盤防災解析	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0
	山地災害環境	0	0	1	1	0	0	3	3	1	1	4	6
	傾斜地保全	1	0	1	2	1	0	1	2	0	0	1	1
斜面災害研究センター	(2 領域合計)	0	1	0	1	0	1	0	1	0	2	0	2
気象・水象災害研究部門	災害気候	0	0	1	1	0	0	2	2	0	0	1	1
	暴風雨・気象環境	0	1	2	3	0	0	0	0	0	0	2	2
	耐風構造	0	0	0	0	0	1	0	1	1	1	0	2
	沿岸災害	1	1	2	4	0	2	0	2	0	2	1	3
	水文気象災害	1	1	1	3	1	0	0	1	0	1	0	1
流域災害研究センター	流砂災害	0	3	1	4	0	1	1	2	1	2	1	4
	都市耐水	2	1	1	4	2	3	1	6	3	2	1	6
	河川防災システム	0	3	0	3	1	3	0	4	1	3	0	4
	沿岸域土砂環境	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1
	流域圏観測	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
水資源環境研究センター	地球水動態	1	0	0	1	1	0	0	1	1	1	0	2
	地域水環境システム	0	1	1	2	0	1	0	1	1	2	0	3
	社会・生態環境	2	2	0	4	4	2	0	6	4	1	0	5
合計		17	31	26	74	14	30	24	68	20	34	31	85

表 5.2.4 大学院在籍者数（修士課程）（各年度 5 月 1 日時点）

部門・センター名	領域・分野名	26 年度	27 年度	28 年度
社会防災研究部門	都市空間安全制御	7	5	4
	都市防災計画	0	0	6
	防災技術政策	6	5	6
	防災社会システム	2	2	2
巨大災害研究センター	巨大災害過程	6	5	5
	災害情報システム	5	2	1
	災害リスクマネジメント	2	1	3
地震災害研究部門	強震動	2	2	1
	耐震基礎	3	2	4
	構造物震害	0	0	2
地震防災研究部門	耐震機構	6	6	7
	地震テクニクス	2	1	0
	地震発生機構	2	1	1
地震予知センター	(6 領域合計)	4	7	6
火山活動研究センター	火山噴火予知	1	1	1
地盤災害研究部門	地盤防災解析	4	7	7
	山地災害環境	2	2	2
	傾斜地保全	1	1	0
斜面災害研究センター	(2 領域合計)	0	1	1
気象・水象災害研究部門	災害気候	2	1	1
	暴風雨・気象環境	9	7	3
	耐風構造	1	2	5
	沿岸災害	8	5	4
	水文気象災害	5	6	5
流域災害研究センター	流砂災害	0	3	8
	都市耐水	6	3	4
	河川防災システム	7	3	2
	沿岸域土砂環境	2	4	3
	流域圏観測	0	0	0
水資源環境研究センター	地球水動態	4	4	4
	地域水環境システム	3	5	5
	社会・生態環境	4	5	4
合計		106	99	107

表 5.2.5 学位論文

(1) 部門・センター在籍院生等の課程博士学位取得

年度	研究科名	氏名	論文題目	主査氏名
26	理学研究科	AKTER, Fatima	Environmental Conditions and Dryline Influence on the Occurrence of Severe Local Convective Storms in Bangladesh during the Pre-Monsoon Season (プリモンスーン期バングラデシュの暴風雨発生に対する環境状態とドライラインの影響)	石川裕彦
26	理学研究科	伊東 瑠衣	地理特性がもたらす都市気候形成過程の変化とメカニズムの解明	竹見哲也
26	理学研究科	久保 久彦	Study on rupture processes of large interplate earthquakes estimated by fully Bayesian source inversions using multi period-band strong-motion data -The 2011 Tohoku-oki and the 2011 Ibaraki-oki earthquakes- (周期帯別の強震波形を用いたフルベイジアン震源インバージョンから推定される巨大プレート境界型地震の破壊過程に関する研究-2011年東北地方太平洋沖地震及び2011年茨城県沖地震を例にして-)	岩田知孝
27	理学研究科	堀田耕平	Style and process of magma intrusion based on combined ground deformation data in and around Sakurajima volcano, southern Kyushu, Japan	井口正人
27	理学研究科	野口 峻佑	アンサンブル予報を用いた成層圏周極渦変動の力学と予測可能性の研究	向川 均
28	理学研究科	鶴沼 昂	日本の暖候期に発生する準停滞性降水系の特徴・形態と環境条件に関する統計的研究	竹見哲也
26	工学研究科	二宮 順一	大気海洋波浪結合モデルにおける海面バルクフラックスの台風時大気海洋物理環境への影響評価	間瀬 肇
26	工学研究科	志村 智也	Long Term Projection of Ocean Wave Climate and Its Climatic Factors	間瀬 肇
26	工学研究科	四條 利久磨	橋梁上部構造に作用する津波波力評価手法に関する研究	間瀬 肇
26	工学研究科	Ghazanfari Hashemi Samaneh	Study on Wave-induced Scour around Pile Groups	平石哲也
26	工学研究科	久加朋子	固定床領域を有する河川における掃流砂・河床変動特性と河川生態システムの改善に関する研究	藤田正治
26	工学研究科	Nor Eliza Binti Alias	IMPROVING EXTREME PRECIPITATION ESTIMATES CONSIDERING REGIONAL FREQUENCY ANALYSIS (地域頻度解析を考慮した極端降水推定値の精度向上に関する研究)	寶 馨
26	工学研究科	段, 偉利 Duan Wei Li	INTEGRATED ASSESSMENT OF CLIMATE CHANGE AND HUMAN ACTIVITIES IMPACTS ON WATER RESOURCES AND QUALITY (気候変動と人間活動による水資源と水質への影響の総合的評価に関する研究)	寶 馨

26	工学研究科	Yu Wansik	Ensemble Flood Forecasting using High-Resolution Ensemble Numerical Weather Prediction with Radar Based Prediction Considering Rainfall Forecast Uncertainty	中北英一
26	工学研究科	峠 嘉哉	流域開発や気候変動の影響を考慮した陸域水循環モデルの構築 －中央アジア域を対象として－	中北英一
26	工学研究科	中原知洋	傾斜式護岸の地震時挙動の解明と耐震対策に関する研究	井合 進
26	工学研究科	曾根照人	岸壁の耐震性向上を目的とした地盤改良の範囲と構造部材の塑性化に関する研究	井合 進
26	工学研究科	崔 美景	Studies on ecological evaluation of reach-scale channel configuration based on habitat structure and biodiversity relations	角 哲也
27	工学研究科	Taymaz Esmacili	THREE-DIMENSIONAL NUMERICAL STUDY ON FREE-FLOW FLUSHING FOR ENHANCING THE EFFICIENCY OF SEDIMENT MANAGEMENT IN RESERVOIRS	角 哲也
27	工学研究科	兵藤 誠	Ecological Evaluation of Shifting Habitat History for Riverbed Management	角 哲也
27	工学研究科	増田有俊	Xバンド偏波レーダによる積乱雲の構造解析を基礎にした降水セルのライフステージ判別と局地的豪雨予測手法の開発に関する研究	中北英一
27	工学研究科	Dang Quang Khang	DEVELOPMENT OF A NEW HIGH-STRESS DYNAMIC-LOADING RING-SHEAR APPARATUS AND ITS APPLICATION TO LARGE-SCALE LANDSLIDES (動的載荷リングせん断試験機の開発とその大規模地すべりへの応用)	寶 馨
27	工学研究科	寺本 智子	人工衛星リモートセンシングを用いた琵琶湖における水環境解析の基礎的研究	寶 馨
27	工学研究科	Bounhieng Vilaysane	INTEGRATED IMPACT ASSESSMENT OF CLIMATE CHANGE ON HYDROLOGY OF THE XEDONE RIVER BASIN, LAO PDR (ラオス国セドン川における水文への気候変化の影響に関する統合的評価手法に関する研究)	寶 馨
27	工学研究科	胡 茂川 Hu Maochuan	IMPACTS OF CLIMATE CHANGE AND ANTHROPOGENIC ACTIVITIES ON CATCHMENT WATER BALANCE AND HYDROLOGIC EXTREMES (流域水収支と水文極値に対する気候変動及び人間活動の影響)	寶 馨
27	工学研究科	河田暢亮	貯水池堆砂量予測のための流域土砂動態モデルの開発に関する研究	藤田正治

27	工学研究科	AHMED ABD ELHAMEED MO- HAMED ALY EL-DIEN	Modelling the Hydraulic Erosion and Failure Processes of Cohesive Riverbanks	藤田正治
27	工学研究科	Liushung HE	Development of Steel Shear Walls Capable of Structural Condition Assessment by Using Double-Tapered Links	中島正愛
27	工学研究科	Xiaoha LI	Evaluation of Earthquake-Induced Local Damage in Steel Moment-Resisting Frames Using Wireless Piezoelectric Strain Sensing	中島正愛
27	工学研究科	William Pringle	Two-way Coupled Multiscale Tsunami Modelling from Generation to Coastal Zone Hydrodynamics (双方向結合マルチスケールモデルによる波源から沿岸域までの津波解析)	五十嵐 晃
28	工学研究科	林 訓裕	長期間供用により経年劣化した道路橋免震ゴム支承の耐震性能評価に関する研究	五十嵐 晃
28	工学研究科	西村 隆義	危機耐性に優れた橋梁の自重補償機構の提案と実構造への実装	五十嵐 晃
28	工学研究科	永島 弘士	津波来襲時の河道内塩水遡上に関する数値解析的研究	五十嵐 晃
28	工学研究科	ADI PRASETYO	Physical Modeling and Numerical Analysis of Tsunami Inundation in a City Scale	間瀬 肇
28	工学研究科	山野井一輝	土砂生産・土砂供給過程を考慮した土砂流出モデルの開発とその応用に関する研究	藤田正治
28	工学研究科	Hendy Setiawan	Landslide Hazard Assessment on the Upstream of Dam Reservoir (ダム貯水池の上流域における地すべり災害の評価に関する研究)	寶 馨
28	工学研究科	薛 寒 Xue Han	HYDROGRAPH-SEPARATION-BASED NON-POINT SOURCE POLLUTION MODELLING IN THE PINGQIAO RIVER BASIN, CHINA (中国平橋川流域を対象にした流出ハイドログラフ成分分離法による非点源汚染モデリングの研究)	寶 馨
28	工学研究科	Josko Troselj	FLUVIAL INFLUENCE ON ESTUARINE SEDIMENT TRANSPORT PROCESSES AND LINKAGE OF ITS OUTFLOW DATA TO COASTAL MODELING (河口土砂輸送過程に及ぼす河川の影響と海岸モデルへの河川流出情報の結合)	寶 馨
26	情報学研究科	竹之内 健	地域気象情報を通じた災害リスクコミュニケーション	矢守 克也
26	情報学研究科	LEE FUHSING	災害復興過程における被災地住民主体のコミュニケーションに関する研究—日本と台湾の事例を通じて—	矢守 克也
28	情報学研究科	岩堀 卓弥	参加型防災学習を通じた専門家と非専門家の関係性の再構築に関する研究	矢守 克也

(2) 部門・センターの教員が主査となった論文博士授与

年 度	研究科名	氏名	論文題目	主査氏名
26	理学研究科	堀口光章	Observational Studies of Large-Scale Turbulence Structures in the Near-Neutral Atmospheric Boundary Layer (中立に近い大気境界層における大規模乱流構造の観測による研究)	林 泰一
26	理学研究科	吉田龍二	北西太平洋の熱帯低気圧発生環境場に関する統計的研究	石川裕彦
26	工学研究科	道広有理	流域スケールの温暖化影響評価に資する全球気候モデル解析手法および気候変動情報データベースの開発	堀 智晴
26	工学研究科	日下 彰宏	震災後の建物安全確認のための鋼構造梁端部の破断検知方法とベイズ更新を利用した検査戦略	中島正愛
26	工学研究科	高田望	降雨現象の階層構造を考慮した短時間降雨予測手法および予測誤差推定に基づいた大雨予測情報提供方法の開発	中北英一
27	工学研究科	鈴木博人	降雨時の列車運転規制のための大雨の空間分布特性を考慮した降雨量の観測方法に関する研究	中北英一
27	工学研究科	池田鉄哉	水防災分野における実効性の高い国際技術協力の実践に関する研究	寶 馨
27	工学研究科	赤澤 隆士	強震動予測の高精度化に資する振幅・位相特性を考慮した地盤増幅特性評価手法の開発	中島正愛
28	工学研究科	佐分利 和宏	建築構造物の機能性向上に資する TMD 免震機構と鉄骨有孔梁機構の開発	中島正愛
28	工学研究科	中安 誠明	建築床の鋼製化への提案と遮音性と剛性・耐力の確保	中島正愛
28	工学研究科	鈴木 芳隆	繰り返し変形に伴う部材挙動評価に基づく長周期地震動に対する安全性評価	中島正愛
28	工学研究科	吉澤 睦博	地震時の室内被災度評価に基づく建物機能損失の定量化	中島正愛
28	工学研究科	小谷仁務	Evaluation of the Function of Local Assets on the Formation of Social Networks and a Resident's Identity (社会ネットワークとアイデンティティの形成過程に着目した地域資産の機能評価に関する研究)	Ana Maria Cruz

表 5.2.6 修士課程修了者数

部門・センター名	領域・分野名	26年度	27年度	28年度
社会防災研究部門	都市空間安全制御	4	3	0
	都市防災計画	0	0	3
	防災技術政策	2	0	3
	防災社会システム	0	1	1
巨大災害研究センター	巨大災害過程	2	4	2
	災害情報システム	3	0	1
	災害リスクマネジメント	2	0	1
地震災害研究部門	強震動	1	1	1
	耐震基礎	2	1	1
	構造物震害	0	0	1
地震防災研究部門	耐震機構	3	1	2
	地震テクトニクス	0	1	0
	地震発生機構	2	0	1
地震予知研究センター	(6 領域合計)	1	2	1
火山活動研究センター	火山噴火予知	0	0	0
地盤災害研究部門	地盤防災解析	0	2	5
	山地災害環境	0	1	1
	傾斜地保全	0	1	0
斜面災害研究センター	(2 領域合計)	0	0	1
気象・水象災害研究部門	災害気候	2	0	0
	暴風雨・気象環境	4	2	0
	耐風構造	0	0	2
	沿岸災害	5	2	2
	水文気象災害	1	4	2
流域災害研究センター	流砂災害	0	0	3
	河川防災システム	4	3	0
	都市耐水	4	2	1
	沿岸域土砂環境	0	2	2
	流域圏観測	0	0	0
水資源環境研究センター	地球水動態	2	2	1
	地域水環境システム	1	2	3
	社会・生態環境	1	2	2
合 計		46	39	43

5.3 学部教育

防災研究所の教員は、本学の理学部、工学部における専門科目、および全学共通開講科目の一部を担当している。防災研究所教員が講義担当している学部専門科目および全学共通科目を、それぞれ表 5.3.1 および表 5.3.2 に示した。表作成は平成 28 年度の情報を用いた。

防災研究所教員には自然災害科学の専門家が多くのことから、理学、工学部の専門科目を主として担当している他、総合科学の防災学として、人文・社会科学系学部の学生にも自然災害の基礎知識を提供している。平成 28 年度には全学共通科目に統合科学系が導入され、これまで防災研究所が提供していた自然災害科学 I, II は統合自然災害科学として前期に 3 クラス提供している。また再配置定員として任用された Sameh Kantoush 准教授、Dubajyoti Samaddar 准教授、Florence LAHOURNAT 講師による英語授業の提供も今期新たに開始された。学部初年度等の学生に対しては、防災研究所の研究・教育活動内容を講義・演習を通じて学生の基礎教育に反映

させるとともに、防災研究への興味を持たせ、幅広いアプローチから防災研究に従事したいと意欲を醸成する貴重な機会であると言えよう。

平成 28 年度からは、それまで実施されていたポケットゼミに代わり、ILAS セミナーと呼ばれる全学共通の少人数セミナーが導入された。防災研究所からも積極的に科目手ウイキョウを進めている。観測所等を用いた実践的な講義も行われている。今後も魅力的な講義を継続していくことが望まれる。

防災研究所の教員が他大学等で平成 26～28 年度非常勤講師として講義を担当した講義は表 5.3.3 の通りである。

卒業論文の研究指導に関して、防災研究所の教員に指導を受け、学士の学位を授与された件数を表 5.3.4 に示す。平均で 40 名余りの学生が、卒業論文指導を防災研究所で受けていることがわかる。なお、理学部では、部局外の教員が卒業論文（課題研究）の担当をしていない。

表 5.3.1 学部担当講義科目一覧（平成 28 年度）

【社会防災研究部門】			
担当（部門内）	協力学部・学科等	科目名	学年・学期
川瀬 博・教授	工学部・建築学科	建築工学概論	1 学年・後期
		建築基礎構造	4 学年・前期
寶 馨・教授	工学部・地球工学科	水文学基礎	3 学年・前期
佐山敬洋・教授	工学部・地球工学科	水文学基礎	3 学年・前期
		Fundamentals of Hydrology	3 学年・前期
		水理実験	3 学年・前期
多々納裕一・教授	工学部・地球工学科	公共経済学	3 学年・前期
		Public Economics	3 学年・前期
		計画システム分析及び演習	2 学年・前期
牧紀男・教授	工学部・建築学科	行動建築デザイン論	3 学年・前期
		設計演習 3	3 学年・前期
【巨大災害研究センター】			
横松宗太・准教授	工学部・地球工学科	地球工学基礎数理	2 学年・前期
		公共経済学	3 学年・前期
Ana Maria Cruz・教授 横松宗太・准教授	工学部・地球工学科 (国際コース)	Public Economics	3 学年・前期
Ana Maria Cruz・教授	工学部・地球工学科 (国際コース)	Planning and Management of Social Systems	3 学年・前期

【地震災害研究部門】			
澤田純男・教授	工学部・地球工学科	構造力学Ⅱ及び演習	3 学年・前期
後藤浩之・准教授	工学部・地球工学科	土質実験及び演習	3 学年・前期
岩田知孝・教授 浅野公之・准教授	理学部	地球惑星科学課題演習 DC	3 学年・後期
澤田純男・教授 後藤浩之・准教授	工学部・地球工学科	耐震・耐風・設計論	3 学年・後期
後藤浩之・准教授	工学部・地球工学科	構造実験・解析演習	3 学年・後期
情報基礎	工学部	後藤浩之・准教授	1 学年・後期
松島信一・教授	工学部・建築学科	建築基礎構造	4 学年・前期
【地震防災研究部門】			
中島正愛・教授	工学部・建築学科	鉄骨構造Ⅱ	3 学年・後期
		建築工学概論	1 学年・後期
倉田真宏・准教授	工学部・建築学科	建築情報処理演習	2 学年・後期
【地震予知研究センター】			
橋本 学・教授 西村卓也・准教授 加納靖之・助教	理学部	地球惑星科学課題演習 DC	3 学年・後期
深畑幸俊	理学部	測地学 A	4 学年・前期
【火山活動研究センター】			
井口正人・教授	理学部	火山物理学 2	4 学年・前期
【地盤災害研究部門】			
上田恭平・助教	工学部・地球工学科	土質実験及び演習	3 学年・前期
井合進・教授	工学部・地球工学科	土質力学Ⅱ及び演習	3 学年・前期
		地盤環境工学	3 学年・後期
松四雄騎・准教授	文学研究科	地理学(特殊講義)	前期・集中
松浦純生・教授	理学部	陸水学	4 学年・後期
【気象・水象災害研究部門】			
石川裕彦・教授 堀口光章・助教	理学部	地球惑星科学課題演習 D	3 学年・後期
丸山 敬・教授	工学部・建築学科	建築工学概論	1 学年・後期
丸山 敬・教授	工学部・地球工学科	建築工学概論	1 学年・後期
丸山 敬・教授	工学部・建築学科	建築構造解析	3 学年・後期
丸山 敬・教授 西嶋一欽・准教授	工学部・建築学科	耐風構造	4 学年・前期
西嶋一欽・准教授	工学部・建築学科	工業数学 C	2 学年・後期
森 信人・准教授	工学部・地球工学科	水理実験	2 学年・前期
中北英一・教授	工学部・地球工学科	確率統計解析及演習	2 学年・前期
		水理水工学	3 学年・前期
山口弘誠・准教授	工学部・地球工学科	水理水工学	3 学年・前期
		水理実験	3 学年・前期
【流域災害研究センター】			
五十嵐晃・教授	工学部・地球工学科	構造力学Ⅱ及び演習	3 学年前期
		波動・振動学	
中川 一・教授	工学部・地球工学科	卒業論文	4 学年・通年
川池健司・准教授 米山望・准教授		水理学及び演習	2 学年・後期

川池健司・准教授 張浩・助教		水理実験	3 学年・前期
【水資源環境研究センター】			
堀 智晴・教授	工学部・地球工学科	水資源工学	3 学年・後期
	工学部・地球工学科	Water Resources Engineering	3 学年・後期
	工学部・地球工学科	確率統計解析及演習 (T3)	2 学年・前期
浜口俊雄・助教 野原大督・助教	工学部・地球工学科	水理実験	3 学年・前期
浜口俊雄・助教 野原大督・助教	工学部・地球工学科	Experiments on Hydraulics	3 学年・前期
竹門康弘・准教授	工学部・地球工学科	河川工学	3 学年・後期

表 5.3.2 全学共通科目一覧（平成 28 年度）

全学共通科目名	講義担当		対象学年・学期
	部 門	担当者	
防災学概論	社会防災研究部門	牧紀男・教授	1 学年・後期
	地震災害研究部門	松島信一・教授	
	地震防災研究部門	倉田真宏・准教授	
	気象・水象災害研究部門	丸山 敬・教授 西嶋一欽・准教授	
地球科学実験	地震予知研究センター	西村卓也・准教授	1 学年・後期
	地震防災研究部門	吉村令慧・助教	
探求型地球科学課題演習	地震防災研究部門	吉村令慧・助教	2 学年・前期
自然地理学	地盤災害研究部門	松四雄騎・准教授	1~4 学年・後期
環境学 I	気象・水象災害研究部門	向川 均・教授	全学年・前期
計算科学が拓く世界	気象・水象災害研究部門	榎本剛・准教授	全学年・前期・後期
統合科学（総合自然災害科学）	水資源環境研究センター	田中茂信・教授	全学年・後期
	巨大災害研究センター	矢守克也・教授	
	地震予知研究センター	片尾 浩・准教授 深畑幸俊・准教授	
	気象・水象災害研究部門	石川裕彦・教授 竹見哲也・准教授	
水と緑と土の科学	気象・水象災害研究部門	中北英一・教授	全学年・後期
	社会防災研究部門	佐山敬洋・准教授	
	地盤災害研究部門	松四雄騎・准教授	
Introduction to Ritual Studies	社会防災研究部門	Florence LAHOURNAT・ 講師	全学年・前期
ILAS セミナー 「Topics in Social Anthropology」	社会防災研究部門	Florence LAHOURNAT・ 講師	全学年・前期
Disaster and Culture	社会防災研究部門	Florence LAHOURNAT・ 講師	全学年・後期
ILAS セミナー 「Introduction to Cross-Cultural Communication」	社会防災研究部門	Florence LAHOURNAT・ 講師	全学年・後期
ILAS セミナー 「山地流域で学ぶ自然環境のしくみと防災」	流域災害研究センター	藤田正治・教授 堤 大三・准教授 宮田秀介・助教	1 学年・前期

	水資源環境研究センター	竹門康弘・准教授	
ILAS セミナー 「空を観る, 海を観る, 川を観る」	流域災害研究センター	馬場康之・准教授 水谷英朗 助教	1 学年・前期集中
ILAS セミナー 「身近な気象の変化を科学する」	気象・水象災害研究部門	石川裕彦・教授 竹見哲也・准教授	全学年・前期
ILAS セミナー 「天気予報と気候変動の科学」	気象・水象災害研究部門	榎本剛・准教授	1 学年・前期
ILAS セミナー 「洛南の歴史景観と河川環境巡検」	斜面災害研究センター	釜井俊孝・教授	1 学年・前期集中
	流域災害研究センター	中川 一・教授 川池健司・准教授	
ILAS セミナー 「山地流域で学ぶ自然環境のしくみと防災」	流域災害研究センター	藤田正治・教授 堤 大三・准教授 宮田秀介・助教	1 学年・前期
	水資源環境研究センター	竹門康弘・准教授	
Introduction to Hydrology-E2	水資源環境研究センター	Sameh Kantoush・准教授	1・2 学年・前期
Natural Disaster Science-E2	水資源環境研究センター	Sameh Kantoush・准教授	全学年・後期
Fundamentals of Fluid Mechanics-E2	水資源環境研究センター	Sameh Kantoush・准教授	全学年・前期
国際交流科目 Conflict Management (Global Water Issues) (地球規模水問題におけるコンフリクトマネジメント)	水資源環境研究センター	角 哲也・教授 Sameh Kantoush・准教授	1・2 学年・前期

表 5.3.3 他大学での学部担当講義科目一覧

分野・領域	氏名・職	大学名	学部名	年度	講義科目名
巨大災害過程	矢守克也・教授	静岡大学	防災総合センター	26-28	地域社会と災害
		神戸学院大学	社会貢献ユニット	27-28	防災心理学
		福岡大学		26-28	現代を生きる (災害から自分や家族を守る)
都市防災計画	牧 紀男・教授	常葉大学	社会環境学部	26-27	防災教育/巨大災害論
災害リスクマネジメント	Ana Maria Cruz・教授	関西学院大学	総合政策学部	27-28	減災まちづくり
内陸地震	深畑幸俊・准教授	京都産業大学	全学共通	26-27	地球科学入門
地震予知情報	加納靖之・助教	関西大学	社会安全学部	28	地球科学概論
地球計測	森井 互・助教	大阪大学	工学部	26-28	地球科学 A
リアルタイム 総合観測	片尾 浩・准教授	大阪教育大学	教育学部	27	地学特論 I
耐震基礎	後藤浩之・准教授	関西大学	社会安全学部	27-28	耐震構造
火山噴火予知	井口正人・教授 中道治久・准教授 山本圭吾・助教 為栗健・助教	鹿児島大学	理学部	26-28	火山物理学 II
	井口正人・教授	秋田大学	工学資源学部	28	地球物理学特別講義
地盤防災解析	上田恭平・助教	広島大学	工学部	27	橋梁と耐震
山地災害環境	松四雄騎・准教授	島根大学	総合理工学部	26	自然災害工学特論 I
	千木良雅弘・教授	茨城大学	理学部	27	地球環境学特論 II
災害気候	井口敬雄・助教	京都府立大学	生命環境学部	26	地学実験および同実験法
流域圏観測	堤大三・准教授	富山県立大学	工学部	28	水理学 2
沿岸災害	森信人・准教授	摂南大学	理工学部都市環境工学科	26	水理学

沿岸災害	森信人・准教授	熊本大学	工学部社会環境工学科	26	海岸工学
流砂災害	竹林洋史・准教授 宮田秀介・助教	立命館大学	理工学部	26-27 27-28	河川工学演習
地球水動態	野原大督・助教	摂南大学	理工学部	26-28	環境工学実験
社会・生態環境	竹門康弘・准教授	龍谷大学	経営学部	27-28	我が社の経営と京都
社会・生態環境	竹門康弘・准教授	静岡大学	大学院総合科学技術研究 科理学専攻	28	水域生態系の生息場学

表 5.3.4 学部卒業生数

部門・センター名	領域・分野名	26年度	27年度	28年度
社会防災研究部門	都市空間安全制御	1	3	3
	都市防災計画	0	1	4
	防災技術政策	1	2	2
	防災社会システム	2	1	1
巨大災害研究センター	巨大災害過程	2	1	1
	災害情報システム	0	2	4
	災害リスクマネジメント	1	2	2
地震災害部門	強震動	0	0	0
	耐震基礎	3	2	2
	構造物震害	0	1	3
地震防災研究部門	耐震機構	3	3	4
	地震テクトニクス	0	0	0
	地震発生機構	0	0	0
地震予知研究センター	(6領域合計)	0	0	0
火山活動研究センター	火山噴火予知	0	0	0
地盤災害研究部門	地盤防災解析	2	2	2
	山地災害環境	0	0	0
	傾斜地保全	0	0	0
斜面災害研究センター	(2領域合計)	0	0	0
気象・水象災害研究部門	災害気候	0	0	0
	暴風雨・気象環境	0	0	0
	耐風構造	0	2	3
	沿岸災害	2	2	2
	水文気象災害	2	2	3
流域災害研究センター	流砂災害	2	2	2
	河川防災システム	2	2	2
	都市耐水	2	2	2
	沿岸域土砂環境	1	1	1
	流域圏観測	0	0	0
水資源環境研究センター	地球水動態	2	2	3
	地域水環境システム	2	2	2
	社会・生態環境	2	2	3
合 計		32	39	51

5.4 社会人教育

防災研究所における社会人教育としては、社会人学生として大学院に入学した学生の研究指導を行う場合と、研究生あるいは研修員等として受け入れる場合がある。

社会人学生は、大学院博士課程を対象とし、各種教育・研究機関や企業等に在職しているものが、大学院在籍中も引き続きその身分を保有しつつ博士論文の研究指導を受けるものである。社会人学生として防災研究所の教員に研究指導を受けている学生数は表 5.2.3 に示される。平成 23～25 年度は、12, 12, 21 人だったが、平成 26～28 年度は、17, 14, 20 人であった。やや増加する傾向にある。

社会人博士は身分を保証されながら研究が継続でき、学位が修得できる点で、学生にとっては非常に魅力のある制度と考えられる。防災研究所にとっても、実務経験を有する人材に対する研究指導を通じて、自然災害科学に対する総合的な見識と技能を高めることが出来るなら、社会の要請に応えることでもあり、その意義はきわめて高い。大学院入学試験時に社会人別途選考枠を設けている研究科・専攻もあり、今後同様な制度の拡充・活用が必要と考えられる。

一方、研究生および研修員の受け入れは社会人教育のシステムとして全学的に実施されているものである。但し、研究生、研修員の中には、いわゆるオーバー・ドクターや博士・修士課程中途退学者も含まれており、制度本来の趣旨に則った活用が十分にされているとはいえない状況もある。表 5.4.1 に研究生、研修生、受託研究員の受入状況を示している。研究生については 3 年間で 23 人と前回の 25 人とほぼ同数であった。研究生には大学院で学ぶ目的の留学生の数も入っているため、分析は長期に亘って行う必要がある。一方、受託研究員は 0 人、研修生は 1 人であった。

防災研究所は、防災という高い社会性を持つ

た分野の研究所であるがゆえに、防災および減災に関する政策や施策、対策技術と密接に関連している。このため、社会人教育は防災研究所の主要な活動の一つとなるべきものと考えられるので、これに備えた制度の整備、広報活動を引き続き行っていく必要がある。

上記のような、研究所内での社会人教育とそれを支える制度の整備に加えて、一般を対象とした講義・講演等も広義には社会人教育の範疇に分類される。防災研究所主催の一般向け教育活動としては、公開講座や年次学術講演会等があげられるが、これらについての詳細は、6 章「社会との連携」を参照されたい。

地域や学校などを対象とし、小・中・高校などの学習、教員研修等を実施している。平成 26～28 年度の防災研究所教員の講義等を表 5.4.2 にまとめた。特にスーパー・サイエンス・ハイスクールやスーパー・パートナーシップ・プロジェクトといった高校生を対象とした科学を学ぶことのおもしろさを誘うプログラムのみならず、科学や防災を身近に感じ、理解してもらうような小・中学生を対象とした教育や研修会が飛躍的に増加した。このように、地域等の社会人教育の枠組みにもきめ細かく協力し、幅広い取り組みを行っていることがわかる。

一方、初等中等教育への貢献や、社会人教育への貢献は、本業であるところの大学及び大学院に於ける教育研究を圧迫しつつある。多部局（研究科、附置研究所）においては、これらの貢献を制限する部局もあると聞いている。このまま増加すると、いずれ選択と集中を考える必要があるかもしれない。

最後に、今回の報告には含めていないが、宇治川オープンラボラトリーでは、消防署職員など自治体の防災関係者の研修を多数引き受けている実態がある。次回調査からは、これらも含める必要がある。

表 5.4.1 研究生・受託研究員・研修員の受入数

グループ名	部門・センター名	H26			H27			H28		
		研究生	受託研究員	研修員	研究生	受託研究員	研修員	研究生	受託研究員	研修員
総合防災	社会防災研究部門	1			4					
	巨大災害研究センター							1		
地震・火山	地震災害研究部門									
	地震防災研究部門	2						1		
	地震予知研究センター									
	火山活動研究センター									
地盤	地盤災害研究部門	3			1			1		1
	斜面災害研究センター				2			1		
大気・水	気象・水象災害研究部門	2								
	流域災害研究センター	2			2					
	水資源環境研究センター									
合計		10	0	0	9	0	0	4	0	1

表 5.4.2 総合学習・教員研修担当一覧（小・中・高校など）

D1. 小・中・高校等における総合学習・教員研修等の講師・授業等（平成 26～28 年度）

分野・領域	氏名・職	学校名	年度	講義名称
巨大災害過程	矢守克也・教授	本山町教育委員会教職員研修会	26	今・ここで・みんなで考える防災～クロスロード・あなたはどうしますか～
		大野市有終西小学校	26	クロスロード・ゲームに挑戦
		本山町連合小学校（本山小・吉野小）	26	防災の勉強「大雨・地震・土砂災害」
		舞子高校	26	防災ゲーム「クロスロード」を体験しよう
		宮城県立多賀城高校	26	防災教育に求められること
		宮城県立多賀城高校	26	特別授業「災害に備えるということ」
		徳島県海陽町宍喰中学校	26	ぼうさい出前授業
		神戸市立真陽小学校	26	小学生と一緒に地域防災を考えよう
		本山町立吉野小学校・本山小学校	26	「てんでんこ」って何？
		宿毛市立咸陽小学校	26	防災教育研究発表会
		四万十町立興津小学校	27-28	学習発表会・防災授業
		本山町連合小学校&いの町神谷小中学校	27	地震がおこす複合災害
		焼津高校	27	津波避難調査発表会学習
		日本地震学会 2015 年度教員免許状更新講習	27	ゲーミングを通じた災害リスク・コミュニケーション
		大阪府立北野高等学校	27	SGH 課題研究発表会
		高知県本山町吉野小学校	28	防災学習会
平成 28 年度第 3 回副校長・教頭等研修	28	学校における災害リスク・コミュニケーション		

巨大災害過程	矢守克也・教授	高知県立須崎高校	28	「逃げトレ」避難訓練
都市防災計画	牧紀男・教授	和歌山県由良町立衣奈小学校	26-28	地域の防災
強震動	岩田知孝・教授	京都府消防局消防学校	26-28	特殊災害2課程「近畿で考えるべき地震と揺れの特徴」
耐震基礎	後藤浩之・准教授	京都市総合教育センター	26	平成26年度京都市安全教育研修講座
		大阪市立吉野小学校	26	防災 自分の身を守ろう
		和歌山県立工業高等学校	26	平成26年度和歌山県高校生防災スクール
		和歌山県立工業高等学校	27	平成27年度和歌山県高校生防災スクール
		和歌山県立工業高等学校	28	平成28年度和歌山県高校生防災スクール
		豊中市立新田小学校	28	地しんの大きさを測ろう
内陸地震	飯尾能久・教授	高槻市大学交流センター事業 夏休み子ども大学	26	内陸地震はなぜ起こるの？
		京丹波町立瑞穂中学校	26	内陸地震とはどんなものだろうか？
		大阪市立内代小学校	26	内陸地震とはどのようなものか？
		日野町立根雨小学校	27	満点計画について
		日野町立黒坂小学校	27	満点計画について
		教員免許更新講習	27-28	内陸地震はなぜ起こるのか？
		城陽市立寺田南小学校	27	地震とはどのようなものか？
		京都府立城南菱創高等学校	28	地震はどのようにして起こるのか？
		大阪府立北千里高等学校	28	熊本地震はどのようにして起こったのか？
		福知山市立三和中学校	28	地震はどのようにして起こるのか？
地震予知情報	伊藤喜宏・准教授	城陽市立深谷小学校	28	子どもの知的好奇心をくすぐる体験授業
		京都府立福知山高等学校附属 中学校	28	子どもの知的好奇心をくすぐる体験授業
		福知山市立美河小学校	28	子どもの知的好奇心をくすぐる体験授業
		京都府立峰山高等学校	28	子どもの知的好奇心をくすぐる体験授業
	加納靖之・助教	岡山県立岡山一宮高等学校	26	i Sイノベーション「英語で理数」
		八幡市立男山中学校	26	子どもの知的好奇心をくすぐる体験事業
		福知山市立昭和小学校	26	子どもの知的好奇心をくすぐる体験事業
		南丹市立殿田中学校	26	子どもの知的好奇心をくすぐる体験事業
海溝型地震	橋本学・教授	滋賀県立石山高校	26	21世紀の地震災害
		日本地震学会教員免許状更新 講習	27	南海トラフの巨大地震と津波
火山噴火予知	井口正人・教授	鹿児島県立錦江湾高等学校ス ーパー・サイエンス・ハイ スクール	26	研究課題担当「桜島の火山雷」
		鹿児島県公立学校事務職員協 会研究大会	26	桜島の大正爆発と学校における危機管理
		鹿児島市立黒神中学校	27	桜島の噴火と現状

火山噴火予知	井口正人・教授	鹿児島大学附属小学校	27	桜島火山と防災
		九州高等学校理科教育研究会 鹿児島大会	28	基調講演
		鹿児島県立楠隼高校	28	ディスカバリー薩摩講演
		九州地区理科教育研究会鹿児島 大会（小中学校）	28	基調講演
		鹿児島市立黒神中学校	28	防災フィールドワーク
	為栗 健・助教	山梨県立日川高等学校	26	スーパー・サイエンス・ハイスクール講義
		山梨県立日川高等学校	27	スーパー・サイエンス・ハイスクール講義
		山梨県立日川高等学校	28	スーパー・サイエンス・ハイスクール講義
暴風雨・気象環境	石川裕彦	大阪市立高津高高	27	模擬授業
		群馬県立中央高校	28	SSH 課外学習対応
	竹見哲也	宇治市立大開小学校	26	地球温暖化はどうして起こるのか？台風や豪雨 はどうなるのか？
		滋賀県立虎姫高等学校	28	SSH 課外学習対応
水文気象災害	中北英一・教授	大阪経済大学エクステンション センター	26	「豪雨のゆくえとゲリラ豪雨の早期探知・予 測」, 大阪経済大学オープンカレッジ2014
		同志社小学校	26	豪雨のしくみを理解して豪雨災害に備えよう」, ぼうさい授業
		京都市児童館・学童保育所職 員研修会	26	豪雨の仕組みを知り災害に備える
		福井県大野市有終西小学校	27	防災WS（5年生）
		京都聖母学院小学校	27	豪雨（ごうう）のしくみを理解して豪雨災害に備 え（そなえ）よう
		近畿農政局防災講習会	27	近年の気象災害の特徴について
		同志社小学校	28	「豪雨のしくみを理解して豪雨災害に備えよ う」, ぼうさい授業
	山口弘誠・准教授	京都府木津川市立恭仁小学校	27	大気を診断するゾンデ観測
		京都大学防災研究所技術室研 修	28	気象レーダーによる降雨観測の原理, および最 新の気象観測技術の紹介
	耐風構造	丸山敬・教授	京都市防災協会・災害に強い まちづくり講座	26
熊本県宇城市御船区自主防災 会発会式			26	都市における強風災害
熊本県宇城市役所職員研修			26	防災リーダー養成講座
熊本県宇城市役所職員研			27	防災リーダー養成講座－台風災害に備えて－
熊本県宇城市役所職員研			28	防災リーダー養成講座－土砂災害の基本知識と 避難・警戒の方法－
河川防災システム	中川 一・教授	京都府立桃山高校	26-28	環境と防災（SSH）
		京都市立伏見工業高校	26-28	風水害の発生メカニズム（SPP）
	川池健司・准教授	西宮市立西宮東高校	26-28	水害を知る・防ぐ・減らす
		京都市立養徳小学校	27-28	水害のはなし
		大阪府立今宮工科高校	28	都市の氾濫災害に関する京都大学防災研究所の 研究
		京都府立嵯峨野高校	28	都市の氾濫災害に関する京都大学防災研究所の 研究

河川防災システム	川池健司・准教授	島根県立出雲高校	26	日本の豪雨災害とその対策
		島根県立出雲高校	28	日本の豪雨災害とその対策
流砂災害	竹林洋史・准教授	桃山高校	26	土砂災害の特徴と対策
	藤田正治・教授	桃山高校	28	砂防ダムの効果と土砂災害について
沿岸域土砂環境	平石哲也・教授	桃山高校, 伏見工業高校など	26-28	スーパー・サイエンス・ハイスクール (SSH), サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト (SPP) 等における「防災教育ならびに水害時避難体験」
流域圏観測	馬場康之・准教授	桃山高校	26-28	SSH
		白浜中学校	26, 28	地域調べ学習
		大阪市立汎愛高校	27-28	臨海実習
		白浜町立西富田小学校	27-28	防災教育
	堤大三・准教授	高山市立本郷小学校	26-28	砂防学習
		高山市立栞尾小学校	26-28	森林学習
		静岡北高校	26-28	スーパー・サイエンス・ハイスクール (SSH) 「土砂災害に関わる教育」
		甲府南高等学校	26-28	スーパー・サイエンス・ハイスクール (SSH) 「土砂災害に関わる教育」
		京都教育大学附属高等学校	26-28	スーパー・サイエンス・ハイスクール (SSH) 「土砂災害に関わる教育」
		足利高校	26-27	スーパー・サイエンス・ハイスクール (SSH) 「土砂災害に関わる教育」
刈谷高校	26,28	スーパー・サイエンス・ハイスクール (SSH) 「土砂災害に関わる教育」		
社会・生態環境	竹門康弘・准教授	京都市立大原学院 総合的な学習の時間	26-28	「高野川用水路水生生物調査」

5.5 外国人教育

防災研究所で受け入れている大学院学生のうち、外国人学生の数は、平成26~28年度では、前述の表5.2.3および表5.2.4に示すとおりである。

外国人学生の出身国は、表5.5.1の通りである。世界各地から留学生を受け入れており、防災研究の国際的拠点としての役割を果たしている。特に、中国、台湾、インドネシア、韓国といったアジアの国からの留学生が多いことがわかる。

外国人留学生の受け入れに際しては、国際交流センターなどの学内組織が充実し、以前より受入教員の負担は軽減してきたと考えられる。しかしながら、留学生が充実した学生生活を過ごすために、特に私費留学生特有な不安定な身分をサポートするシステムの構築も、引き続き進める必要がある。

防災研究所の教員が、JICA研修や海外の大学・研究所等で外国人を対象として行った（国際学会・会議での発表は除く）講演・講義は表5.5.2に示すとおりである。前回に引き続き多数の講義を行っており、防災研究に関する国際的なニーズの高まりと、それへの対応が期待されていると考えられる。

防災研究所教員が、海外の大学において学位論文審査に携わったものを表5.5.3に示した。防災研究所教員が、海外における災害調査等をきっかけとして、先方の大学院性等の教育研究指導に携わったと考えられ、平成26~28年の3カ年で5件の実績があった。ちなみに前回は7件である。

表5.5.4に、留学生の受け入れ状況を示す。平成26~28年度の留学生の総数は121名で、前回（平成23~25年度）の129名を下回った。

表 5.5.1 外国人学生の出身国 (大学院生分) (各年度5月1日現在)

グループ名	部門・センター名	年度	留学生の出身国																	合計					
			アフガニスタン	イラン	インド	インドネシア	エジプト	クロアチア	タイ	ニュージーランド	ネパール	パラグアイ	バングラデシュ	ブルガリア	ベトナム	マレーシア	ミャンマー	ラオス	南アフリカ		米国	台湾	大韓民国	中華人民共和国	
総合防災	社会防災研究部門	H26				2	1									3	2		1				1		6
		H27				3	1									2	1		1				1		4
		H28	1			3	1							1		1	1						1		3
	巨大災害研究センター	H26																				1			5
		H27																							
		H28	1																			1			2
		H26																							
		H27																							
地震・火山	地震災害研究部門	H26																							
		H27																							
		H28			1																				1
	地震防災研究部門	H26																							
		H27																							
		H28																							
		H26																							
		H27																							
地震予知研究センター	火山活動研究センター	H26																							
		H27				1																			1
	H28				1																				1
	H26																								
地盤	地盤災害研究部門	H26																							
		H27																							
		H28																							

表 5.5.2 外国人研究者向け講義一覧

(1). 海外の大学等における講義等（平成 26～28 年度）

分野・領域	氏名・職	大学等名称	国名	年度	講義等名称
防災技術政策	寶 馨・教授	国連大学	日本	26	Climate Change and Extremes: Water-Related in Japan and in the World
		ガジャマダ大学	インドネシア	26	Educational Research for Sustainable Development and Disaster Resilience
		ハサヌディン大学	インドネシア	26	Disaster Situations in Japan and in the World
		国連大学	日本	27	Climate Change and Extremes: Water-Related in Japan and in the World
		ポツダム大学	ドイツ	27	An Inclusive Trans-Disciplinary Graduate School Program and other Disaster Prevention Research Institute Initiatives
都市防災計画	牧紀男・教授	マレーシア工科大学	マレーシア	27	災害復興
強震動	浅野公之・准教授	国立地球物理学研究所	インド	28	Ground Motion Simulation in the Osaka Sedimentary Basin, Japan, using the Three-Dimensional Velocity Structure Model
構造物震害	松島信一・教授	南カリフォルニア地震センター夏の学校	米国	28	Site conditions from microtremors
地殻活動	徐培亮・助教	中国科学院大学	中国	26-28	Nonlinear estimation, nonlinear filtering, nonlinear optimization and robust estimation
		同済大学			Nonlinear model, nonlinear estimation, robust estimation and integer least squares with applications to GPS
傾斜地保全	松浦純生・教授	JICA, Third country training program	チリ	26	Adaptave watershed management with emphasis in environmental services and climate change
傾斜地保全	松浦純生・教授	北京林業大学	中国	28	Natural causes and inducements of sediment-related disasters, Mitigation measures for sediment-related disasters
耐風構造	丸山 敬・准教授	逢甲大学	台湾	26	Today's Wind Engineering in Japan
		台湾国立防災研究所	台湾	27	Strong wind disaster in Japan
耐風構造	西嶋一欽・准教授	オクラホマ大学	アメリカ	27	Introduction to engineering decision making under uncertainty
		フィリピン大学ディリマン校	フィリピン	28	Sustainable improvement of constructions for disaster resilient society

災害気候	榎本剛・准教授	ベトナム国立大学ハノイ科学大学	ベトナム	28	Introduction to Numerical Weather Prediction
沿岸災害	森 信人・准教授	テキサス A&M 大学	アメリカ	26	Projection of climate change impact on coastal environment
		エジンバラ大学	英国	27	Projection of Ocean Climate Change
暴風雨・気象環境	竹見哲也・准教授	韓国海洋大学校	韓国	26	The assessment of typhoon hazards at regional-scales in the Pacific regions with downscaling numerical experiments
		国立台湾大学	台湾	26	Regional-scale downscaling of typhoon hazards under changing climate
		ハノイ大学	ベトナム	28	Tropical convection dynamics: Convective organization and environmental control
流砂災害	竹林洋史・准教授	清華大学	中国	26	Numerical analysis of debris flow
		ペラデニア大学	スリランカ	26	Numerical analysis of debris/mud flow
		チュラロンコン大学	タイ	26	2D bed deformation analysis
		ペルー土木学会	ペルー	27	Debris/mud flow simulation model
		マンダレー工科大学	ミャンマー	27	Sediment transport and bed deformation mechanism in rivers
		インド工科大学	インド	27	Numerical analysis of debris/mud flow
		アメリカ土木学会	アメリカ	28	Application of numerical analysis of debris/mud flow
	ホーチミン市工科大学	ベトナム	28	2D bed deformation analysis	
	宮田秀介・助教	ガジャマダ大学	インドネシア	26	Sediment disasters and countermeasures
		ムハンマディア大学ジョグジャカルタ	インドネシア	26	Hydrological processes associated with Sediment disasters
流域圏観測	堤大三・准教授	ムハンマディア大学	インドネシア	27-28	Bedload Monitoring Method in Mountainous Streams
都市耐水	五十嵐 晃・教授	ヤンゴン工科大学	ミャンマー	26	Dynamics of Structures
		ヤンゴン工科大学	ミャンマー	27	Theory of Vibration
河川防災システム	中川 一・教授	UNESCO-IHE	オランダ	27	River Embankment Failure due to Overtopping – In Case of Non-cohesive Sediment –
地球水動態	野原大督・助教	Chulalongkorn Univ.	タイ	27	DRC Collaborative Lectures “Fundamentals of reservoir operation modeling and optimization”

地球水動態	野原大督・助教	Chulalongkorn Univ.	タイ	27	DRC Collaborative Lectures “Advanced reservoir operation considering real-time hydro-meteorological information”
地域水環境システム	田中茂信・教授	ヤンゴン工科大学	ミャンマー	27	Statistical analysis of hydrological extremes
		ヤンゴン工科大学	ミャンマー	28	Statistical analysis of hydrological extremes
	田中賢治・准教授	K-Water Academy	大韓民国	27	HydroAsia2015
		ヤンゴン工科大学	ミャンマー	27	Data analysis of GCM and historical Data
		スクス農業試験場	ウズベキスタン	28	International Center for Biosaline Agriculture Training Course
		成均館大学 ヤンゴン工科大学	大韓民国 ミャンマー	28 28	SKKU Seminar Data analysis of GCM and historical Data
社会・生態環境	角 哲也・教授	国立台湾大学	台湾	28	貯水池総合土砂管理

(2) 国内における外国人研究者向け講義（JICA 研修等）（平成 26～28 年度）

分野・領域	氏名・職	研修等名称	年度	講義等名称
防災技術政策	佐山敬洋・准教授	UNESCO-IHP トレーニングコース	27	Risk Management of Water-related Disasters under Changing Climate
都市空間安全制御	川瀬 博・教授 松島信一・准教授	JST 日本・アジア青少年サイエンス交流事業(さくらサイエンスプラン)	26	「強震動予測手法」講習会、「地震被害予測技術」講習会、「非破壊的地質調査手法」講習会・フィールド実習
都市耐水	五十嵐 晃・教授	JICA 課題別研修	26	インフラ（河川・道路・港湾）における災害対策 構造物耐震設計概論
		JICA 課題別研修	27	インフラ（河川・道路・港湾）における災害対策(A)コース 構造物耐震設計概論
		JICA 課題別研修	28	インフラ（河川・道路・港湾）における災害対策(A)コース 構造物耐震設計概論
地殻活動	澁谷拓郎	建築研究所国際地震工学研修・政策研究大学院大学修士論文指導	26	Crustal structure analysis of the Philippines using receiver function technique: A introductory study using a local broadband seismic network by A.G.S. Rivera
海溝型地震	橋本 学・教授	国立成功大学	27	SAR データ解析
暴風雨気象環境	石川裕彦・教授	SATREPS 本邦研修	26-28	ガーナ気象局職員研修

水文気象	中北英一・教授	UNESCO-IHP トレーニング コース	27	Projected future meteorological environment - Heading to adaptation strategy -
流砂災害	藤田正治・教授	火山学・総合土砂災害対策コ ース	26-28	土砂水理学
	竹林洋史・准教授	ASEAN 災害管理衛星情報活 用能力向上支援プロジェクト	26	Sediment Disaster in Hiroshima, 2014
		スリランカ測量局研修	27	DEM を用いた土石流氾濫解析
		SATREPS 研修	28	インドネシア X バンド MP レーダーを用いた 土砂災害予測手法
	宮田秀介・准教授	SATREPS 研修	28	インドネシア X バンド MP レーダーを用いた 土砂災害予測手法
水資源環境研究セン ター各領域	角 哲也・教授 堀 智晴・教授 田中茂信・教授 竹門康弘・准教授 田中賢治・准教授 Kantoush Sameh・准 教授 浜口俊雄・助教 野原大督・助教 佐藤嘉展・客員准教 授 小野裕一・客員教授 川崎昭如・非常勤講 師	UNESCO-IHP トレーニング コース	27	Risk Management of Water-related Disasters under Changing Climate
	田中賢治・准教授	Country focus Training of IMPAC-T (SATREPS)	26	Data Processing for Land Surface Model Analysis
	田中賢治・准教授	UNESCO-IHP トレーニング コース	28	River Discharge
社会・生態環境	角哲也・教授	政策研究大学院大学・ ICHARM	26-28	修士課程(防災政策プログラム 水災害リスク マネジメントコース (Water-related Disaster Management Course))

流域圏観測	林 泰一・准教授 馬場康之・准教授	JICA 集団研修（気象業務能力向上）	26-28	気象防災にかかる研究成果・実験施設等の概説
地震発生機構	山田真澄・助教	国際地震工学研修（地震学コース，津波防災コース）	26-28	地震早期警報システムについての特別講義

表 5.5.3 海外の大学における学位論文審査担当一覧

分野・領域	氏名・職	大学名（国名）	研究科名等	年度	論文題目
暴風雨・気象環境	石川裕彦・教授	Andhar 大学 （インド）	Department of Meteorology and Oceangraphy	27	A STUDY ON THE IMPACT OF CONVENTIONAL AND SATELLITE OBSERVATIONS AND SENSITIVITY OF MODEL PHYSICS IN PREDICTING BAY OF BENGAL CYCLONES
暴風雨・気象環境	石川裕彦・教授	Andhar 大学 （インド）	Department of Meteorology and Oceangraphy	28	CONVECTIVE ACTIVITY OVER SRIHARIKOTA: CHARACTERISTICS, FORECAST AND VALIDATION
耐風構造	西嶋一欽・准教授	The University of Newcastle（オーストラリア）	Department of Civil Engineering	27	Spatial Time-Dependent Reliability Analysis of Carbonation Induced Corrosion Damage to RC Structures Under a Changing Climate and Cost-Benefit Analysis of Climate Adaptation Strategies
沿岸災害	森 信人・准教授	University of Notre Dame（アメリカ合衆国）	Department of Civil Engineering	27	Physical Modeling and Numerical Analysis of Tsunami Inundation in a City Scale
火山噴火予知	井口正人・教授	バンドン工科大学 （インドネシア）	Department of Geodesy	27	Examination of Static Stress Change of Volcano due to Tectonic Earthquake - Triggering of 2013 Eruptions of Sinabung volcano

表 5.5.4 留学生の受け入れ（単位：人）（各年度 5 月 1 日現在）

	H26	H27	H28	合計（グロス）/平均
国費	18	18	16	52/17.3
私費	23	19	27	69/23.0
合計	41	37	43	121 /40.3

5.6 教育プロジェクト

5.6.1 グローバル生存学大学院連携プログラム

平成 23 年度から始められた大学院改革プログラムである博士課程教育リーディングプログラムについて、京都大学では、運営委員会を設置し、この制度による全学的な新しい学位の質保証の仕組みを構築してきた。「グローバル生存学大学院連携プログラム」(平成 23～29 年度)は、9 つの研究科(教育学、経済学、理学、医学、工学、農学、アジア・アフリカ地域研究、情報学、地球環境学)と 3 つの研究所(生存圏研究所、防災研究所、東南アジア研究所)が共同で複合型領域(安全安心)において提案して採択されたものであり、工学研究科からは、社会基盤工学専攻、都市社会工学専攻、都市環境工学専攻、建築学専攻、機械理工学専攻の 5 専攻が参画している。

このプログラムを推進するために、学際融合教育研究推進センターのもとに「グローバル生存学大学院連携ユニット」を平成 24 年 2 月に設立した。同年 4 月から毎月 1 回プログラム教授会を開催して、本プログラムにおける入進学審査、大学院連携教育プログラムのカリキュラム、学生に対する経済的支援などについて審議・運営を行っている。

現代の地球社会は、①巨大自然災害、②突発的人為災害・事故、③環境劣化・感染症などの地域環境変動、④食料安全保障などの危険事象や社会不安がますます大きく、かつ、広がっている。本プログラムでは、これらの諸問題をカバーする「グローバル生存学」(Global Survivability Studies, 略称 GSS)とい

う新たな学際領域を開拓した。そして、社会の安全安心を脅かす様々な事象に対して、予め対策を講じるとともに、事象発生時には適時・的確に対処することのできる国際的なリーダー、すなわち、

- (1) 人類が直面する危機を乗り越え、人間社会を心豊かにし、その安寧に貢献するという使命感・倫理観にあふれた人材
- (2) 自らの専門性に加えて幅広い視野と知識・智恵によつて的確に対策を行うことのできる判断力・行動力を備えた人材

を育成してきた。この GSS プログラムでは、

・総合大学の特長を生かし、9 つの大学院と 3 つの附置研究所が連携し、単独の大学院・専攻では実現できない学際融合的な体制(大学院連携)の中で優れた教育・研究を展開して、有能な学生自らが育っていく環境を整えること、

・ケース・メソッド(CM)や問題(プロジェクト)解決型学習(PBL)を適用し、安全安心分野における現場主義・対話主義を基調とした人材育成の新しい「京大モデル」を確立すること、

を目指している。
9 研究科から 92 名の履修者がおり、平成 28 年度までに 11 人が付記型の博士学位記を授与された。防災研究所からは 2 人の学生が博士(工学)を取得している。